

目次

- 1面 教育問題委員会研修会(県民フォーラム)
- 2面 関東ブロック研究大会 埼玉大会
- 3面 新潟県教育委員会
「休日の部活動の段階的な移行について」
- 4面 日P三行時コンクール入賞、年次表彰
- 5面 新潟県教育委員会
「いじめ見逃しゼロ県民運動」の取組
- 6面 組織検討委員会活動報告
「PTAの組織についてのアンケート報告」
- 7面 広報委員会活動報告・広報紙コンクール案内
コロナ禍でのPTA活動紹介
- 8面 小・中学生総合補償制度

新潟県 P T A

No.112

発行 新潟県小中学校PTA連合会
編集 広報委員会
〒950-0965
新潟県中央区新光町7番地2
新潟県商工会館5階
Mail ngktnpta@coral.ocn.ne.jp
ホームページもぜひご覧ください!
新潟県PTA連合会 検索

講演概要 「こどものこころ 親のこころ ～こどものこころの危機にどのように付き添うか～」

講師 新潟青陵大学大学院 伊藤 真理子(公認心理師・臨床心理士)

1 こどものこころと人間関係

- コロナ禍において心が育つために必要なものが阻害され、子どもたちのこころや人間関係の危機
- 自分づくりが始まる(分離个体化)時期←→様々な不安を伴う時期
- 「いじめ」「ひきこもり」など、必ずしも大人が望む方向ではない方向からこそ、「私」は芽生え、育ってくる
- 「顔を知っている人には悩みは話せない」、「交わらないSNSアカウント」、「いつメン」

2 現在のこどもの対人関係

- コミュニケーションが希薄である(そつはないが、ぶつかったり、悩んだりすることは苦手)
- 自分からイメージや内界を表現する言葉が貧困である(「別に」「そこそこ」「きもっ」「しねっ」「くさっ」)
- 身内と他人が極端に分化している(「身内」に分かってほしいので、表面的には団結力が高く見えるが、「他人」に変わると他人への想像力は働かない)

3 保護者の痛み(こどもに問題が生じたとき)

- 親として「子育てができていない」など孤独感、「子どもが悩んでいるときその悩みが分からない」という気持ち、「親失格だと周囲から思われてしまう」「自分の子育てや親として人生を否定された」とつらい気持ち
- 早く解決したいという思いの中で、試行錯誤の結果うまくいかなかったことへの焦り
- 「いじめ」については、原因の分からなさの辛さ、原因が一つでないことの辛さ、解決できないことへの辛さ
- 自分自身の思春期・青年期に生じた過去の特徴に、深く出会うことが難しいまま、親になり、子育てをしてきた不安感
- 親子関係でも、ぶつかれなさ、反抗できなさがあり、親自身の対人関係の希薄さ、夫婦関係の希薄さ、家族関係の希薄さによりコミュニケーションができないという現状

4 保護者として、どのようにこどもの悩みに付き添うのか

- こころの危機 ～必要なプロセスという視点
 - ・こころの危機または家族の危機には自分たち親子、夫婦にとっては「必要なプロセスという視点」をもつとよい
 - ・問題が起こったら関係が終わりではなく、せつかく家族になったので、「自分たちに何が課題となっているのか」「苦しいけどどういうことに取り組んでいるのだろうか」を一緒に考えられたらよい
- 絶対的な味方がいるという感覚の中で子どもは自己成長できる
 - ・子どもが成長するなかで、父母は見捨てないでいてくれる絶対的な味方であるという思いが、様々なことにチャレンジできる、いろいろなことを試して大人になっていく、成長ができることを心の中に根付かせていくことが大切
 - ・大変な思いをしても、父母もあきらめることなく見守っているのだという思いがあるかどうか、子どもがちゃんと歩めるかどうか、必要なプロセスを越えていくことができるかどうか、一つのポイントということができる
 - ☆(子どもには)安心して悩んでよいのだという感覚を
 - ☆(親は)必要であれば話し合える相手に
 - ☆(親は)悩みすぎず、動揺しすぎず、しかし柔軟に
 - ☆(子どもにとって)秘密も大事、信じる気持ちを
- 親自身が安定できるために、話し相手を持つことの大切さ
 - ・問題が起きたときには保護者自身が不安になったり、否定された気持ちになったりすることが多い。その中で「こどものこころに付き添っていく」には、とてもきついこと。それを越えていくためには親自身が安定できるために何かしなければならぬという思いがある
 - ・「何が問題だろう」ではなく、「大変だったね」と話ができればよい。心の底から関わることは勇気がいること。どのように声をかけたらよいか分からない、と引いてしまっている親もいる
 - ・「自分は困っている」「どうしたらよいか分からない」と親が周りに話をできる環境が大切。関係機関に相談することもできる。また、困る前、深刻になる前の状態で、保護者同士が話ができる関係づくり、環境づくりがとても大切になってくる



日頃より、教育問題委員会の活動に際しましてご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

習推進センターにて、県教育委員会や社会教育団体との連携により「こどものこころの危機にどのように付き添うか」という

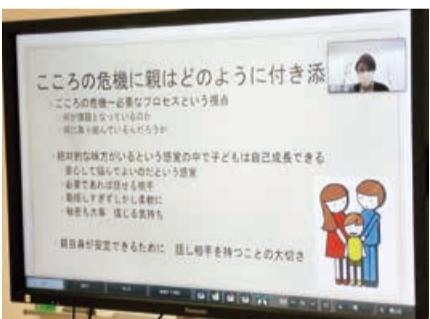
家庭教育講演会を開催いたしました。講師として、新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科教授伊藤真理子様をお招きし、「こどものこころの危機にどのように付き添うか」というテーマにてご講演いただき



ご説明いただき、また私たち親として、家族関係や親子関係の希薄さなども指摘いただきました。今回はコロナ禍ということもあり、オンラインでの開催となりましたが、多数の方からご参加いただき誠にありがとうございました。お互いに思春期の子を持つ親として、今回の講演を今後の子育ての参考にしたいだけなら幸いに存じます。

(教育問題委員長 松野 幸博)

「こどものこころの危機にどのように付き添うか」
家庭教育講演会
「こどものこころの危機にどのように付き添うか」
講師 新潟青陵大学大学院 教授 伊藤 真理子様



家庭教育講演会にオンライン参加して

阿賀町P連 渡部 一知

私が暮らす阿賀町(注:阿賀野市の隣、というか更に奥地)では学校を休みがちになる子が増えていると聞きました。今回の講演を通して、子どもが安心して成長するためには、周りにいる「大人が安心感を与える」ことが重要だと感じました。親・教職員・そして地域の方々が連携・協力して、気軽に相談できる環境を整えることが必要だと思います。阿賀町では小中高の全てでコミュニティスクールが導入されましたので、今後の取組に期待しています。

胎内市P連 三宅 弘明

今回初めて参加させていただいた家庭教育講演会は、講師である新潟青陵大学の伊藤真理子先生から、「こどものこころの危機にどのように付き添うか」をテーマにご講演いただきました。子どもに問題が生じたときに親としてどのように対応すればよいのか。親としての機能不全や問題を早く解決したい焦り、また、どのように子どもの悩みに付き添うのかなど、納得できることが多々ありました。親と子の関係でありながらも一人の人間として向き合い、「失敗談も含めてなんでも話合える関係性」を大事にしながら、子どもと一緒に悩み、一緒に成長していきたいと思っております。



第53回 日本PTA関東ブロック研究大会 埼 玉 大 会

学校と連携した、継続したメディア学習の取組

第1分科会（健康・安全）発表 柏崎市立枇杷島小学校PTA

1 はじめに

当校は明治7年に創立し、まもなく150周年を迎える市内でも歴史のある学校です。PTA組織は、執行部と3つの専門部(広報部・体育部・環境保健部)などで構成されています。

これらの専門部の活動とは別に、メディアに特化した取組を行っています。PTA執行部が学校教育の一部を企画・提案する特色ある活動となっています。

2 取組を始めた経緯

当校が、メディアに特化した取組を始めたのは5年前です。メディア機器が急速に進化し、小学生がトラブルに巻き込まれることや、大人のマナーが問題視されるようになりました。

そこで、メディア機器を扱う前、持つ前にしっかりと教育をしなくてはならないと考えました。

しかし、普段の授業に加え、メディア教育を学校だけに任せることは、教職員に負担をかけてしまうこととなります。そして、メディア機器との関わり方は学校だけでなく家庭での関わり方も重要です。そのため、子どもを取り巻く多くの人が関わる取組でなければいけないと考え、内容を考えました。

3 実践の内容

当校では、児童・保護者・教職員が三位一体となって取組を行い、メディアに強い学校づくりを目指しています。

メディア学習の活動内容は次の①～③です。

①メディア学習会

講師を招いて児童・保護者・教職員と一緒に学びます。低学年・中学年・高学年とそのレベルにあった学習会を実施しています。



今年度のメディア学習の様子(高学年)



今年度のメディア学習の様子(低学年)

②親子ディスカッション

6年生は親子学習として、メディア講演の後に親子ディスカッションを行います。中学生に上がるタイミングでスマートフォンを持たせたり、メ

ディア機器を使用させたりする時間が増えてきます。その前に、親子で本音をぶつけ合う大好評な企画です。

③メディア意見交換会

学年懇談会を利用して、普段子どもがメディア機器をどのように使っているか、学校の様子も含めながら保護者と教職員が話し合います。ここで話し合われた内容は、子ども一人一人の夏休みのメディア目標の設定などに利用されています。

このように1年生～6年生まで全員が取り組み、保護者・教職員も必ずいずれかの企画に関わる仕組みになっています。

もう一つの取組として、「親子でノーメディア(省メディア)チャレンジ」を行っています。市P連などの団体が毎年11月を「大人のマナーアップ月間」に設定しています。それに合わせてこの企画を実施しています。

11月のどこでもよいので、一日だけノーメディアもしくは省メディアに親子で取り組みます。任意での参加としていますが、年々参加家庭数が増加し、家庭でメディアについて話すきっかけ作りや、家族のコミュニケーションの機会として利用されています。

4 取組のポイント

1つ目は、教職員に負担をかけないことです。教職員任せにするのではなく、軸となる部分は保護者中心で行うことで教職員の協力を得ることができます。

2つ目は、学校行事との調整です。保護者が集まりやすいタイミングや学校行事、講師との日程調整などを、前年度から企画することでより多くの保護者に関わってもらうことができます。

3つ目は、次年度への確実な引継ぎです。当校は執行部が2年任期となっています。そのことを利用して企画内容を引継ぎながら来ました。今年で5年目を迎えます。メディア教育は継続が大切です。

4つ目は、繰り返しになりますが、児童・保護者・教職員の全員が関わることです。メディア教育に早すぎることはありません。低学年から学ぶことが大切です。

5 終わりに

現在、コロナ禍にあり、子どもを取り巻く環境も変化しています。少子化による児童数の減少や情報化によるSNSの発達で人間関係の希薄化、またはコミュニケーション能力の低下など問題は様々あります。不審者やSNSによる危険も身近にあります。

私たちPTAは、学校任せにするのではなく、積極的に教職員または地域の方と協力して子どもを危険から守り、一人でも多くの子どもを笑顔にしていけるような活動を目指します。

高めていくことが大切。大
た。コロナ時代を生き抜くチ
カラとは人間力。人間力を
お話も聞くことができました。

今年度のメディア学習の様子(高学年) 今年度のメディア学習の様子(低学年)
記念講演の尾木ママこと尾木直樹氏は「コロナ時代を生き抜くチカラ」皆さんと一緒に考える」という演題で、素敵なお声・柔らかい口調でお話をいただきました。今回はとても難しいテーマだと思って聞いていましたが、実行委員の方が事前に用意してくださった質問に答えていくという方法で、普段お聞きできないこと(尾木ママの子育てのことなど)の貴重なお話も聞くことができました。

第53回日本PTA関東ブロック研究大会埼玉大会が令和3年10月16日にライブ配信と各県から2、3名の参加で開催されました。コロナ禍で、埼玉大会実行委員の方々には大変工夫して開催していただき感謝しております。「受け継がれる：『絆』つながるう人と人彩の国から未来へ向けて！」子どもの豊かな心と生きる力を育むために」というスローガンのもと、全体会では尾木直樹氏の記念講演ライブ配信、各分科会は後日、配信という形式で行われました。配信は翌年の1月までと長い期間となっていて、大変貴重な講演や研究発表等をじっくり、じっくり観ることができ良かったと思います。



関ブロ研究大会
埼玉大会に参加して
副会長 岩淵里江子



心が元気になることが一番大事であること(相手にエンパワーメントを与えること)を尾木ママのお話の中で改めて学びました。子どもの豊かな心と生きる力を育む大切さをとても分かります。これからの生きる力(共感力)を高めて自分自身も含め成長していきたいと感じました。

人も子どももAIを使いこなす力をつけることも共感力をつけること。共感力を高めるためには相手の気持ちを把握すること。相手にどうしたの？と相づちをうちながら聞くことで、相手は心に元気が出ることになる。



関ブロ研究大会埼玉大会に参加(オンライン参加)して
南蒲郡P連 船久保 弥
コロナ禍が収まらずオンライン配信での開催となった本大会ですが、スクリーン越しに見る現地の風景は会場の臨場感を損なわれないような配慮がなされていました。本来ならば埼玉まで足を運んで聴くはずの尾木直樹先生の講演も、自宅に居ながら視聴することができ、コロナ禍にあっても利便性を感じられるものでした。現地スタッフの入念な準備に敬意を表するとともに、貴重な講演を聴く機会をいただけたことに感謝申し上げます。



近年に至っては新型コロナウイルスの影響もあり、行事の縮小廃止がある中で貢献できることの間口を広げ、舞台裏から主体的に参加する時には教職員とも意見を交換しリードすることもできるはず。過去の義務的な参加意識とは違った、PTAとして更に地域として子どもたちを大人に迎えるまで育てていくことにやりがいを感じる大会内容でした。主催者・講演者の熱量に背中を押された大会でした。

三条市P連 倉重 保久
今回開催された埼玉大会に参加し感じたことは、分科会に「参加しやすいPTA」ということです。

関ブロ研究大会埼玉大会に参加(オンライン参加)して
南蒲郡P連 船久保 弥
コロナ禍が収まらずオンライン配信での開催となった本大会ですが、スクリーン越しに見る現地の風景は会場の臨場感を損なわれないような配慮がなされていました。本来ならば埼玉まで足を運んで聴くはずの尾木直樹先生の講演も、自宅に居ながら視聴することができ、コロナ禍にあっても利便性を感じられるものでした。現地スタッフの入念な準備に敬意を表するとともに、貴重な講演を聴く機会をいただけたことに感謝申し上げます。

休日の部活動の段階的な地域移行について

新潟県教育庁 保健体育課 学校体育指導係 副参事・係長 志田 哲也 様

令和2年に文部科学省等は、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」を示し、令和5年度以降、休日の部活動を段階的に地域に移行していくこととしました【資料1】。

現在の部活動の維持は限界

教員の多忙化を背景に、心身の不調を訴える教員が増加するなど、今後、質の高い教育の維持が困難な状況となる中、休日の部活動指導に負担を感じる教員も多くなっています。

公立学校教員には残業手当が支給されないため、教員は少額の手当のみで休日の部活動を指導している実態があります。このように、現在の部活動は、大部分を教員のボランティア的な取組によって支えられている現状があります。この状況で現在の形での部活動を維持することには限界があり、今後は持続可能な形に切り替えていく必要があります。

改革は生徒の幸せを最優先に

一方で生徒や保護者の視点では、部活動には様々なニーズがあります。全国大会を目指して高度に競技力向上を目指す生徒もいれば、体力を身につけることや、仲間と楽しい時間を過ごすことを目的とする生徒もいます。

しかしながら現在の部活動の現状として、専門的な指導が可能な顧問が必ずしも各学校に配置されていないこと、生徒数の減少により単独校でチームが組めない場合が増えていること、楽しく活動をしたい、学習も頑張りたいと思っても、休日の活動時間が長いこと、で叶えられない場合もあるなど、個々のニーズに必ずしも応えることができていない状況があります。

県教育委員会としては、部活動改革の方向性について、まずは生徒の幸せを最優先に、生徒の活動をより良いものとするを旨とし、その結果、教員の働き方改革も進むような制度設計

をしていく必要があると考えます。

部活動に代わる地域の活動とは？

【資料2】は、休日に学校で部活動が行われなくなった際の「地域の活動」の全体像です。生徒は、この表に示された活動の中から、自身のニーズに応じた活動を選択することになります。また、いずれの活動にも参加しないことも可能です。

地域運動部活動の準備を進めています

現在各地域では、市町村教育委員会を中心に、それぞれの地域のニーズや

実情に応じ、地域が持っている資源を生かした、地域運動部活動の実施に向けた準備を進めています。

この活動は、平日の学校部活動と連携した活動として、「運動したい生徒すべてが参加可能な、競技力向上のみを目的としない運動機会の確保を目的とし、総合型地域スポーツクラブや市町村競技協会等が運営する活動です。その運営方針等の決定に際しては、学校や保護者等を交えた検討会議の開催が必要であると考えます。地域のニーズに合った制度設計のためには、保護者の皆さんの意見の反映が不可欠であるので、是非とも意見を述べていただければと思います。

受益者負担が基本になります

これまでの学校部活動は学校教育の一環として無償で提供されてきましたが、地域移行後は学校の活動ではなく、指導者の報酬、保険料、会場使用料、用具代などについては受益者負担が基本

になります。現在、負担に見合った活動を提供できるよう、関係団体等が準備を進めているところです。

また、受益者負担が発生することによって運動機会を奪われる生徒が出てくることは防がねばなりません。スポーツ庁は今後、必要な財政支援について検討するとしています。

学校部活動の現状は？

教員の働き方改革に伴う業務の精選が進んでいることに加え、ほとんどの中体連主催大会は夏の全国大会に向けた予選会で終わることもあり、秋以降の部活動は、活動が極めて制限される状況にあります。今の時期、多くの学校で平日の活動時間は1時間程度という現状があります。

このような状況で、もう少し活動したい、専門的な指導を受けたいという生徒のニーズは少なくないため、学校部活動と並行して、地域のクラブチーム等への参加が増え、活動が活性化

するなど、徐々に地域移行が始まっている様子も確認できます。また、先行的に地域運動部活動をスタートさせる市町村も増えてきています。

最後に

今回の部活動改革の流れでは、教員の働き方改革が前面に出されたこと、受益者負担が発生すること、また急激な変革となること等について、保護者の皆様には少なからず違和感や不安感をお持ちであると拝察します。

今後は、保護者の皆様をはじめ、多くの関係者の皆さんの意見を参考にしながら、生徒目線で、生徒の幸せを実現することを最優先に、中学生の新しいスポーツ環境の整備を進めてまいります。

なお、各地域における検討状況や準備の進捗状況等については、随時、各市町村教育委員会から情報が発信されることになっております。

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要

部活動の意義と課題

- 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- 一方、これまで部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- 中教審答申や給特法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

改革の方向性

- 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

具体的な方策

I. 休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

- 休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保（育成・マッチングまでの民間人材の活用や、兼職兼業の仕組みの活用）
- 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援
- 拠点校（地域）における実践研究の推進とその成果の全国展開

II. 合理的で効率的な部活動の推進

- 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との合同部活動の推進
- 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となるICT活用の推進
- 主に地方大会の在り方の整理（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）

※ 以上の取組は、主として中学校を対象とし、高等学校においても同様の考え方を基に取組を実施。
※ 私立学校は、以上に示した公立学校の取組を参考に、教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

【資料1】

休日の部活動の地域移行後の、中学生の運動機会

活動の種類（運営主体）	活動の目的	予想されるメリット・デメリット
民間のクラブチーム (アルビ、JSSなど)	◇選手コース ◇トップチーム	競技力向上 【メリット】プロ指導者による専門的指導の下での競技力向上 【デメリット】・経済的負担大・時間的負担大・地域間格差大
	◇普及クラス	運動機会の確保
地域のクラブチーム (スポ少、市町村協会、NPO、町道場など)	競技力向上 > 運動機会確保	【メリット】地域での活動のため移動等の負担が比較的少ない 【デメリット】ニーズに応える活動がない可能性
県協会主催の活動	◇国体強化 ◇年代別強化	競技力向上 【メリット】学校部活動から独立した強化活動が可能 【デメリット】移動手段の確保が困難
	◇普及	人材発掘 > 競技力向上 【メリット】中体連競技（種目）以外の普及が可能 【デメリット】移動手段の確保が困難
地域運動部活動 市町村教育委員会を中心に、運営主体（総合型地域SC、スポ少、市町村協会等）と連携した制度設計。兼職兼業による教員の指導可。	運動機会確保 > 競技力向上	本年度実施の、国事業のモデル地域において検証

【資料2】

【Q&A】

●令和5年度から、学校の部活動はなくなるのですか？

なくなりません。準備ができた地域、種目から、徐々に休日の学校部活動を地域の活動に移行していきます。

●「地域の活動」とはどのようなものがありますか？

既存の、民間のクラブチーム(アルビレックス、NASなど)、地域のクラブチーム、県協会等の活動に加え、平日の部活動と連携し、教育委員会が学校や保護者等と一緒に運営方法を決定する「地域運動部活動」があり、これらの活動から自分のニーズに合った活動を選択できるようになります。

●「地域運動部活動」で保護者の負担は増えますか？

学校の活動でなくなるため、保険料や指導者の謝金等については基本的に受益者負担となります。また、活動場所への送迎や交通費の負担も増えることが予想されます。そのため、このような負担に応じた満足度の高い活動とする必要があると考えています。

●地域の活動には必ず参加しなければいけませんか？

参加するかしないかは自由です。また、平日の部活動と異なる種目に参加することもできます。

●休日の活動が地域での活動となった場合、大会参加はどうなるのですか？

現在、中体連主催大会は学校単位での参加を基本としています。令和5年度に向け、中体連は合同チームやクラブチーム単位での参加可否等について検討を進めています。

●地域の活動では、どのような人が指導するのですか？

指導者資格や教員免許をもちいる指導者、一定程度の研修会を受講した指導者、及び地域での活動の指導を希望する教員等が指導します。

●文化庁も地域に移行するのですか？

文化庁も、運動部と同様に、段階的に地域の活動に移行します。

令和3年度 日本PTA「楽しい子育て全国キャンペーン」5年連続上位入賞

三行詩コンクール入賞おめでとう

応募総数

119,888作品

小学生の部 67,487作品
中学生の部 45,532作品
一般の部 6,869作品

〈上位入賞〉

- ・文部科学大臣賞
- ・厚生労働大臣賞
- ・「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞
- ・日本PTA全国協議会会長賞
- ・佳作 5作品

毎年日本PTAでは、子育てや家庭教育を支える地域の環境が変化中、改めて家族の会話やコミュニケーションから生まれるきずな・家庭のルール、「早寝早起き朝ごはん」といった子どもたちの基本的な生活習慣づくりなど、家庭教育の大切さや命の大切さについて、家族で話し合い取り組むことを社会全体に呼びかけていくため、「三行詩コンクール」を行っています。

新潟県では小学生の部で平成29年度から3年連続、一般の部で令和2年度、今年度は中学生の部と上位4作品に選ばれ、5年連続上位入賞の快挙です。今年度の「『早寝早起き朝ごはん』全国協議会会長賞」に輝いた小日向優さんの作品は「ファミリーカレンダー」となりました。

小学生の部 佳作

(新潟県最優秀賞)

母の日のかたもみ券
使ってくれてありがとう
でもね、回数こえてるよ

田上町立羽生田小学校 4年 小日向 紗季さん

こひなた
さき
さん



中学生の部 「早寝早起き朝ごはん」 全国協議会会長賞

(新潟県最優秀賞)

田上町立田上中学校 1年 小日向 優さん

令和3年度 新潟県三行詩コンクール 入選者

「たのしい子育て全国キャンペーン」

～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～

小学生の部 入選

つかれて帰ってきたママに
おかえりのぎゅっ
今日一日がんばったママへのごほうびだよ。
ぎゅうするわたしにも一日のごほうびだね。
田上町立羽生田小学校 4年生 大関 結衣

「おやすみ・グッナイ・See you !」
お母さんと1日の最後の合い言葉
また明日もがんばるね
田上町立羽生田小学校 4年生 川村 七音

天国のおばあちゃん
いってきます
かえったら今日の出来事おしえてあげるね
田上町立田上小学校 3年生 青木 羽琉

うちでは、なかなかおりまでがけんかです。
田上町立羽生田小学校 1年生 諸橋 大歩

中学生の部 入選

近道した人には見えない
遠回りした人にはしか見えない景色があるよ
母が言ってくれる その言葉が私の背中を押す
田上町立田上中学校 1年生 古田 美姫

おうち時間
普段あわない家族の時間
1つになれた
貴重な時間
長岡市立青葉台中学校 3年生 宮下 月希

授業で習った戦争のこと 少年達も戦場へ
家族と過ごす 友だちと笑う
当たり前だと思っていた
今なら分かる 日々の幸せ
魚沼市立小出中学校 3年生 大澤 もも

お父さんとお母さんはいつも笑っている
ぼくたちもつられて笑っている
この瞬間が一番幸せ
大事にしたい家族の笑顔
田上町立田上中学校 1年生 栢森 颯大

一般の部 入選

どんなに時間のない朝も、
「行ってらっしゃい」ハイタッチ。
今日も無事でと
願い込め
長岡市立秋葉中学校 中島 晴香

娘が母の身長を追いこした
息子が私の夢を追いこした
2人とも大きくはばたいしてほしい
魚沼市立後山小学校 平松 寛隆

スマホに目？
ダメダメ見るなら
家族の目!!
長岡市立秋葉中学校 柴田 顕伸

子どもらの
成長見守り 四苦八苦
叱ってみたり 抱きしめてみたり
長岡市立秋葉中学校 小林 宗徳

一般の部 最優秀賞

うれしいよ
たのしいよ
やすらぐよ
ありがとう
あなたがいてくれて
あなたがいてくれて
あなたがいてくれて
あなたがいてくれて
あなたがいてくれて
あなたがいてくれて

長岡市立秋葉中学校

金泉

圭

※敬称略

※以上の作品は、日本PTAへ推薦いたしました。多数ご応募いただき、ありがとうございました。

(応募数：小学校40点 中学校278点 一般24点)



- 個人
 - 板倉 久徳 (新発田市立外ヶ輪小学校 P T A)
 - 笠井 勝也 (前糸魚川市立能生中学校 P T A)
 - 山口 裕子 (見附市立西中学校 P T A)
 - 川上 巧 (前佐渡市立両津小学校 P T A)
- 団体
 - 上越市立板倉中学校 P T A
 - 柏崎市立比角小学校 P T A
 - 刈羽村立刈羽小学校 P T A
 - 阿賀野市立京ヶ瀬中学校 P T A
 - 上越市立板倉中学校 P T A
 - 刈羽村立刈羽小学校 P T A

日本PTA全国協議会会長表彰

文部科学大臣表彰

毎年PTA活動で優れた業績を有する団体や個人が、新潟県教育委員会や新潟県小中学校PTA連合会から推薦され、表彰されています。
今年度は、次の団体・個人の皆様は表彰されました。おめでとうございます。

表彰式
とき：令和3年11月19日(金)
ところ：東京都千代田区
ホテルニユーオータニ

祝
令和3年度
年次表彰

「いじめ見逃しゼロ県民運動」の取組

新潟県教育庁生徒指導課 副参事 指導主事 石山 崇 様

子どもにこんな変化はありませんか？

子どもを見守るための、家庭でのチェックポイント

- これまで関心のあったことに対する興味がなくなった。
- 物事に集中できなくなった。
- 成績が急に落ちた。
- 簡単にできていたことができなくなった。
- 不安やイライラが増えて落ち着きがなくなった。
- やる気がなくなったり、投げやりな態度が目立つようになったりした。
- 元気がなく、ぼんやりしていることが多くなった。
- 不自然なほど明るく振る舞ったり、気をつかったりするようになった。
- 自分を傷つける行為を行うようになった。
- 不眠、食欲不振、過食、体重減少、だるさなどの体の不調が続いている。
- 朝、起きられなくなったり、学校に行きたくなくなったりした。
- 友達との付き合いを避けたり、一人でいたりすることが多くなった。
- 外出をしなくなったり、引きこもりがちになったりした。
- 無断外出したり、帰宅が遅くなったりするようになった。
- 他人や動物をいじめるようになった。
- 事故につながる行動をたびたび起こすようになった。
- 突然悲しくなって涙が出たり、声を出したりすることが多くなった。
- 長い間会っていなかった人に、突然会いに行ったり電話をかけた。
- 大切にしていたものを、人にあげたり処分したりした。
- 「死にたい」などの言葉を、書いたり口に出したりした。

新潟県教育委員会をはじめ、県内の様々な企業・団体によって構成されている「深めよう 絆 にいがた県民会議」では、「いじめ見逃しゼロ県民運動」(以下、県民運動)を推進しています。

県民運動は、いじめが大きな社会問題となっていた平成十九年度に始まりました。いじめによって尊い命が失われるような痛ましい事故を繰り返してはならないという強い願いのもと、大人が責任をもって子どもの健全育成を図っていか

とす気運が高まり、県内各団体によって、「いじめ根絶にいがた県民会議」が結成され、「いじめ根絶県民運動」がスタートしました。平成二十一年度には、その後継事業として、児童生徒の社会性育成を主体とした「深めよう 絆 県民運動」となり、平成二十五年年度からは運動の方向性を焦点化し、改めて、「いじめはどの学校にも、どの子どもにも起こりうる」という認識に立ち、「いじめ見逃しゼロ」の意識を社会全体で共有するとともに、学校・家庭・地域が連携していじめの積極的な認知及び未然防止に努める「いじめ見逃しゼロ県民運動」を開始しました。

深めよう 絆 にいがた県民会議では、「いじめ見逃しゼロ県民運動」を推進しています

このような経緯により、県民運動は今年度で十五年目を迎えました。県民運動は、様々な団体や機関が、共通理念のもと、お互いが連携し、主体的な取組を展開していかうとするものであり、全国でもまれな、注目すべき取組です。時代の変化、子どもの変化に合わせ、県民運動もま

た、常に進取の気風を保ちながら、拡大発展していくよう取り組んでいきます。

全国統一の24時間子供SOSダイヤル

なやみ言おう

0120-0-78310 (フリーダイヤル)

または

025-285-1212 (通話料がかかります)

いじめ見逃しゼロ 県民運動



令和二年十二月に「新潟県いじめ等の対策に関する条例」ができました。これは、新潟県内の全ての子どもたちが、楽しく、充実した生活を送り、光り輝く未来となることを願い、県民が一丸となって社会全体でいじめを防止することを目的に制定されたものです。この条例は、平成二十五年に制定された「いじめ防止対策推進法」に基づくもので、この条例の特徴として、新たに「いじめ類似行為」(注)を加えたことや(第二条)、県民に対して通報を呼び掛けていること(第十条)、「保護者の責務」を明記したこと(第八条)などが挙げられます。児童生徒

「新潟県いじめ等の対策に関する条例」

を知っていますか

と同様に、保護者もインターネットを通じて送信される情報の特性等を理解することが求められています。特に、インターネット上で公開された書き込みや個人情報、一度拡散してしまうと、完全に削除するのが不可能であること(デジタルタトゥー)の怖さを十分に理解する必要があります。

(注)いじめ類似行為とは？

例えば、SNS等で悪口を書き込まれたことについて、書かれた本人が知らないとしても、その行為を本人が知った時に、いやな思いをする可能性が高い場合などです。この場合も、いじめと同様に扱い、「いじめ類似行為」を行った児童生徒に対して、学校は保護者などと連携しながら指導を行います。なお、まだ「いじめ」に気付いていない児童生徒に、そのことを伝えるかどうかは、保護者と学校が相談して決める必要があります。

いじめ見逃しゼロ 県民運動

県民サポーター募集中

「深めよう 絆 にいがた県民会議」では、いじめ問題に関心をお持ち協力していただける人を増やし、子どもが安心して生活できる環境をつくりたいと考えています。

そこで、いじめ防止に向けた取組に協力していただける「県民サポーター」を募集しています。登録すると、LINEやメールを通じて、月に1回程度「いじめ見逃しゼロ コラム」が配信されるなど、県民運動の各種情報をお知らせします。登録は無料です。ぜひ登録をお願いします。

登録をお願いします!

LINE アプリ「ホーム」→「友だち追加」から「ID検索」or「QRコード追加」で登録

ID:@ijime0 (いじめゼロ)




メールでも登録ができます
←メールでの登録はコチラ!
QRコードから空メールをお送りください。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

PTAの組織についてのアンケート報告

組織検討委員会 委員長 大谷 和弘

PTAという組織が誕生してから長い月日がたち、世の中の情勢が刻々と変化している中で、PTAでも組織上の問題点が数多く顕在化してきております。このような状況の中で、県内のPTA組織の現状の把握と、取組や改善事例などを共有し、より時代に即したPTAへの道筋を考えていく必要があると感じ今回のアンケートを実施いたしました。昨今のコロナ禍で、PTA組織や活動の意義が問い直されている今だからこそ、このアンケートの結果は皆様のPTAにとって何らかのお役に立てるものではないかと思っております。

今年度組織検討委員会で、PTAの組織に関するアンケートを実施いたしました。全てのデータを記載した報告書は単P会長にお送りいたしますが、一部抜粋してこちらでお知らせします。

【役員数の割合について】

今回のアンケートの中で、各単Pがどのような組織形態で活動しているのかを確認する必要があり、役員数の調査を行いました。その結果、10%〜20%という回答が最も多かったものの4割弱にとどまり、約6割が21%以上の割合で役員を選出しているという結果になりました。

【専門委員会の設置について】

設置されている専門委員会に関して、学校規模に関わらず3委員会以上設置している単Pが合計で約8割を超えています。これは、後述のPTAの問題点の所にも散見されますが、活動も組織も前年度踏襲が繰り返され、その委員会の役割が希薄になっているのも原因であると考えられます。また、学校規模と専門委員会数の分析を行うと、中小規模・小規模校でも複数の専門委員会があり、PTA組織のサイズに合った委員会の設置がなされているかどうかというところに疑問が生じる結果になりました。

【PTAの組織上の問題点について】

アンケートの中でもPTAの問題点に関しては多くの回答をいただきました。特筆すべきは、活動がほぼ前年の引継ぎという回答が多かったことです。現状のPTA活動の形骸化がよくわかる結果となりました。子どものために何をすべきかということではなく、PTA組織があるから活動するという本末転倒の様子が目立ちます。この部分に関してはPTAの基本に立ち返って活動を見直していかねばなりません。

【PTA改革の必要性について】

PTA改革が必要だと考えている方が約6割と現状のPTAに何らかの問題を抱えている単Pが多いのではないかと推察します。では、どの

【PTAの組織上の問題点について取り組んでいること】

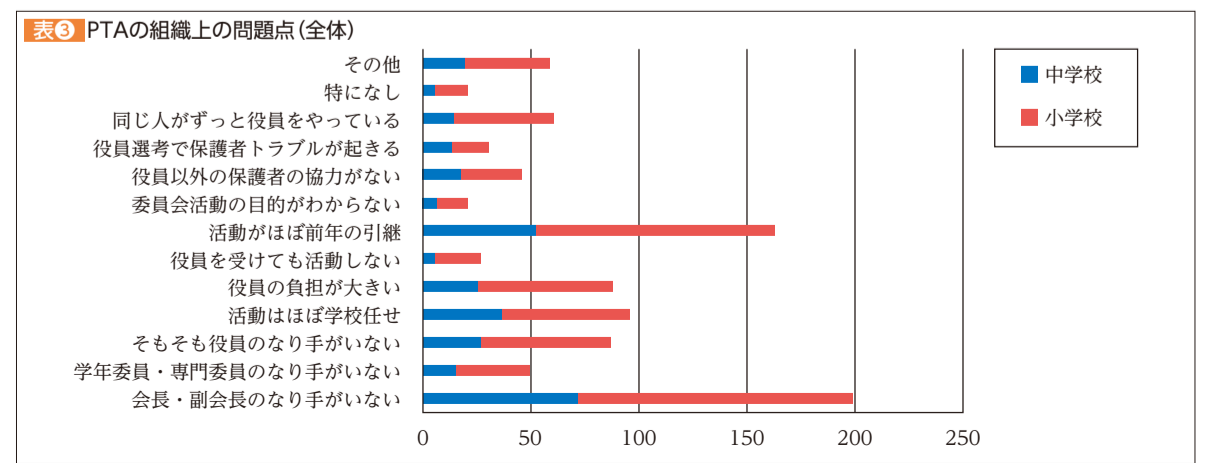
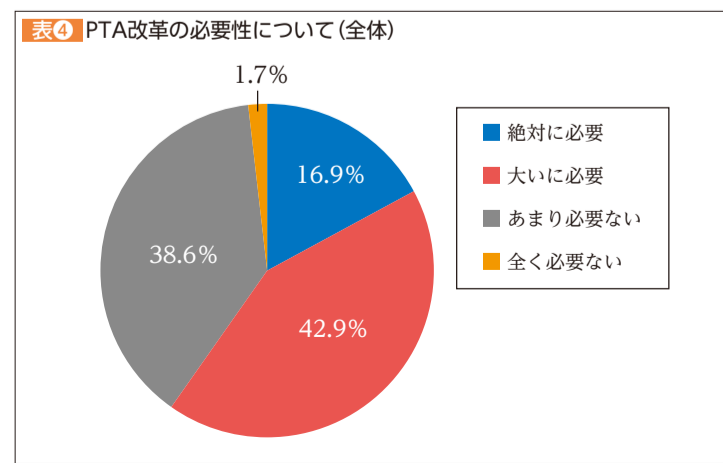
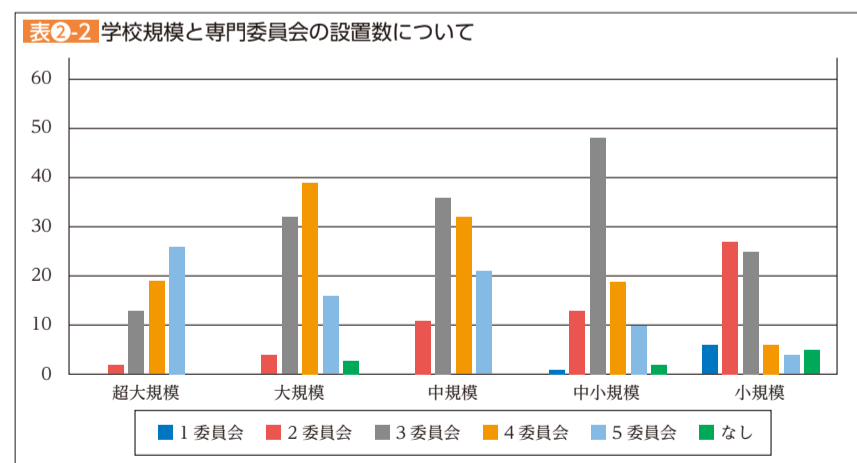
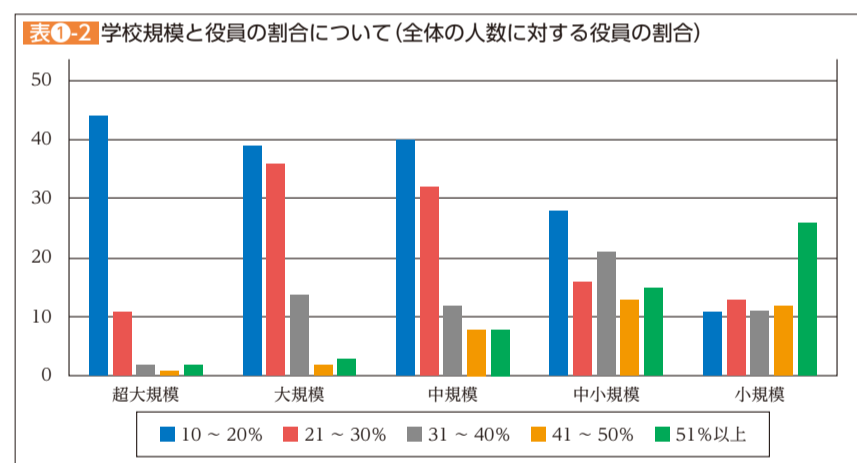
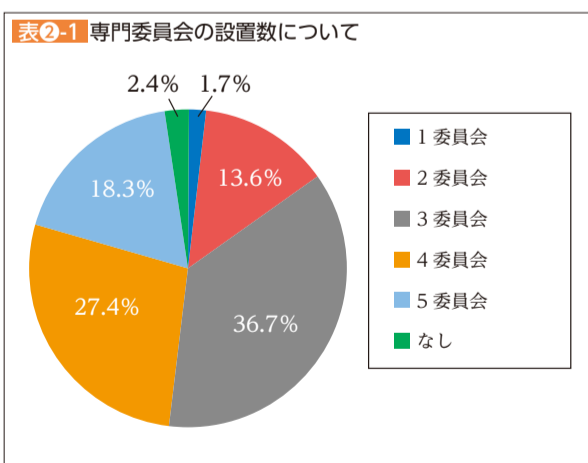
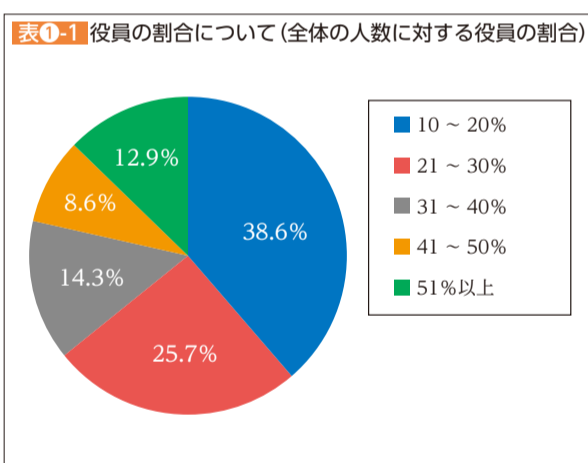
こちらの設問に関しては記述式にも関わらず非常に多くの回答をいただきました。組織上の問題解決のために多くの単Pが①専門委員会の見直し②役員数の見直しなどに取り組まれていることがわかりました。

- PTAの組織についてのアンケート項目**
- 【PTA組織について】**
- ①貴PTAの役員数はどのくらいですか？(全保護者に対する役員数の割合) **表1**
 - ②専門委員会はいくつくらいありますか？ **表2**
- 【PTA会長ほか三役の選出について】**
- ③PTA会長の選出方法を教えてください(複数回答可)
 - ④上記選考方法で順調に決まりますか？
 - ⑤PTA副会長・三役の選出方法を教えてください(複数回答可)
 - ⑥上記選考方法で順調に決まりますか？
- 【三役以外の役員の選出について】**
- ⑦役員になるノルマ(在学中に役員をやらなければならない)はありますか？
 - ⑧役員の選考方法を教えてください(複数回答可)
 - ⑨上記選考方法で順調に決まりますか？
 - ⑩どうしても決まらなかった場合の選出方法を教えてください
- 【PTA組織の問題点について】**
- ⑪貴PTAの組織上の問題点だと思うことはなんですか？(複数回答可) **表3**
 - ⑫PTA組織改革は必要だと思いますか？ **表4**
 - ⑬現在の貴PTAの組織上の問題点に関して取り組んでいることがあれば教えてください
 - ⑭過去に貴PTAの組織上の問題点に関して解決した事例があれば教えてください
 - ⑮その他PTA組織に関して思うところがあればご意見をお聞かせください
- 【PTA活動全般の問題点について】**
- ⑯PTA活動全般の問題点に関して取り組んでいることがあれば教えてください。また、その問題点に関して解決した事例があれば教えてください

現状は「委員会を作らなく

ではならないから役員を決める」という組織になっているPTAを、「子どものためにこういうことをしたいから委員会を作る」に大きく考え方を変えていく必要があると思えます。また、「大半の親はPTAの役員になることはハズレくじのように考えている」とこれは回答の一部の文言ですが、非常に気になる一言であり、まさにその通りだと思えます。そもそもPTAの役員が「ハズレくじ」だという認識を改めなければならぬと同時に、その「ハズレくじ」を誰かに押し付けるといふ役員選考の在り方を、我々親は子どもにどう説明できるのでしょうか？ その一点だけでもPTAの改革は保護者にとっても喫緊の課題であるといえます。

この他、非常に中身の濃いデータが集まっておりますので是非報告書をご覧ください。最後になりましたが、このアンケートにご協力くださいました各単P会長様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



広報委員会 活動報告

広報委員長 渡邊 未佳

コロナ禍により昨年度は多くのPTA活動が中止になりました。今年度は感染状況を鑑み、理事会や全国研究大会、関東ブロック研究大会などがオンラインで開催されました。コロナ禍に対し、なんでも中止するのではなく、今できるやり方で実現するという新たな形、活動が生まれつつあります。

第111号では、新たな形としてオンラインで開催された理事会や全国研究大会について掲載しました。また、各学校で作成された広報紙コンクールの入賞作品や4年連続上位入賞、2年連続ダブル入賞という快挙を果たした三行詩コンクールについても掲載しています。限られた誌面の中でできるだけ多くの活躍を知っていただけるようにしました。

第112号では、関東ブロック研究大会で研究発表を行った柏崎市立枇杷島小学校の活動を紹介しますので、ぜひご覧いただき、ご参加されたいと思います。また、県民フォーラムについても参加されなかった方に知っていただけるよう掲載しました。社会問題となっているいじめについてもご家庭でぜひ参考にしてくださいと思います。

今年度は皆さんに知っていただきたい取組として「30人以下学級の実現」や「部活動の段階的・地域移行」という教育環境整備についても取り上げていますので、ぜひご覧いただき、ご協力いただきたいと思います。最後に、原稿依頼にご快諾をいただいた皆様、広報委員会の皆様に感謝申し上げます。活動報告とさせていただきます。

第20回新潟県小中学校PTA 広報紙コンクールのご案内

県P連では、PTA広報活動の活性化を目的に広報紙コンクールを開催いたします。ぜひ、ご応募ください。

応募方法・応募締切

令和3年4月から令和4年3月までに発行された単位PTA広報紙の全ての号をセットにして2部、県P連事務局に送付してください。

応募締切 令和4年3月31日(木)必着

審査方法・基準

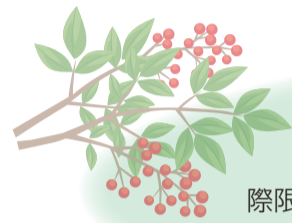
一次審査・二次審査で、最優秀賞・企画賞・写真賞・レイアウト賞・佳作の各賞を決定します。

日本PTA広報紙コンクールの審査基準を参考に、PTA広報紙の目的・使命・記事・編集・レイアウト・見出し文などを総合的に審査します。

※詳しくは、2月上旬に各郡市P連事務局を通じて各単位PTAに配信された実施要項をご覧ください。

コロナ禍におけるPTA活動 その2

際限なく繰り返される新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、今年も昨年同様PTA活動が制約を受け、まさに試練の1年となりました。そのような時こそ、PTAの力で学校、地域を巻き込んで、子どもたちだけでなく、会員にも勇気と活力、希望を与えてくれるような多くのPTA活動が、広く県内で展開されました。昨年に引き続き特色ある活動を行った郡市PTA連合会(連絡協議会)の取組を紹介する、第2弾。今後の活動の参考に、一読をお願いいたします。



編集後記

今年度はコロナに負けていられないと、オンライン+美会議のハイブリッド開催を行い、コロナ禍以外、災害時でも連携が取れるチャレンジが行われました。県民フォーラムもオンラインで参加しましたが、会場に行けずとも有意義な講演を拝聴でき、移動が不要な分参加しやすかったです。コロナ禍をチャンスと捉え変革し、子どもの成長を支える活動の更なる充実



地域と作る防災グッズ



地域と学ぶハザードマップ学習

忘れてはならない防災

加茂市小中学校PTA連絡協議会

コロナ禍にも負けず、積極的に活動している須田中学校PTAの活動を紹介します。今年度も新型コロナウイルスが流行し、様々な学校行事の中止や様式の変更が行われ、先のない一年がスタートしました。新しい生活様式の中で、今まで以上に保護者と学校、そして地域とが一つになり、子どもたちと一緒に何ができるかを考えました。新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、一部(地域の方々と二部(保護者の方々の)時間帯に分け、学習発表会を行いました。コロナ禍ではありますが、忘れてはならない自然災害と防災について、子どもたちが学んできたことを発表してもらいました。地域のハザードマップの確認、段ボールベッドの組立て、地元(西村農園さんの協力によるドライフルーツ(特産品の梨やりんご)の美食品など、楽しく学び体験することができました。まだまだ出口は見えないかと思いますが、安心安全に子どもたちと今できることを考えていきたいと思いました。

夏休みオンラインクイズ大会

糸魚川市PTA連絡協議会



コロナ禍にも負けず、積極的に活動している大和川小学校PTAの活動を紹介します。コロナ禍で地域の行事が次々と中止になる中、PTA行事も同様に夏休みの楽しみでもあるプール開放が中止となりました。そこで、代替えとして夏休み中の2日間、親子参加型のオンラインクイズ大会を企画しました。全校児童186名中138名が挑戦し、学校の歴史・行事に関する問題や、児童にしか分からない学年別の問題、1学期の学習内容について等、先生方からご協力いただき、工夫を凝らした問題を出題していただきました。事前に配布した学年ごとの二次元コードを読み取り、親子で協力しながらクイズを解くことと、コミュニケーションも図れたのではないかと感じます。また、自宅での対応が難しい場合は親子で来校していただき、児童のタブレットを使って回答することも可能となりました。後日、参加者全員に参加賞として花火を、全問正解者にはお菓子トロフィーを贈呈して夏休みの思い出づくりの一助となりました。

SNSに潜む危険!花火打上げ?

見附市PTA連合会



巣ごもり生活を余儀なくされた子どもたち、その生活の中心には常に情報通信機器端末があります。見附市P連研修会では、見附警察署生活安全課より講師をお招きして、その利便性の裏に潜む危険を保護者自身が理解し、子どもたちへの働きかけについて考える機会を持ちました。見附中学校体育館で開催された講演会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、参加人数を制限し、席と席の間隔を広く取るなど対策を徹底しての開催となりました。自らの端末使用の様子を知ることで、巣ごもり生活の中でのルール作りの必要性などを確認する良い機会となりました。また、市内の見附市立今町中学校、小学校PTAでは、コロナ禍で中止となった活動がある中、脱コロナを願う子どもたちを元気づけるため、地域の方との共催でサプライズ打上げ花火を行いました。当日は密集を防ぐ為、打上げ場所、時間などは告知せずに開催しました。



映画「お弁当の日」めんどくさいは幸せへの近道

阿賀野市PTA連絡協議会



阿賀野市P連教養部では、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、参加人数を制限しての講演会を開催しました。市PTA連で何度かお願している、竹下和男様をお招きし映画「お弁当の日」めんどくさいは幸せへの近道」の上映と、講演をしていただきました。この映画は、「大人は決して手伝わなさい」というルールの下、子ども自ら台所に立ち、自分の弁当を作る食育活動を題材にしたドキュメンタリーの作品です。「食事作りは親の役割」という社会環境で育った子どもたちが、「自分で作る」チャンスを得たとき、本人や家族の中に芽生える成長や気付きを、笑いや涙を交えて作られています。講演では映画製作の過程や裏側などを聞くことができました。これまでは、食育とは良い食生活や良い食習慣を学ぶものと思ってきましたが、弁当の日の講演を聞いてから自分で作る喜びや、感謝の心を知ること、失敗の中から多くを学び生かす力を身に付けるなど保護者としても学ぶこと多い講演会になりました。

をお願いいたします。実は今年度で「卒業」の私。PTAで出会った皆様には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。(広報委員 亀山拓水)

小・中学生総合補償制度ご加入のおすすめ

(団体総合生活保険)

新規加入受付中!!

3月18日(金) (第一次締切) までに加入 → 4月1日(金)から補償
4月22日(金) (第二次締切) までに加入 → 5月1日(日)から補償

特長 1

お子様やご家族が加害者に!?

示談代行付き(国内のみ)
個人賠償責任補償で安心!
支払限度額は最高1億円(P5・M5プラン)

学校から貸与されるタブレット端末を壊した等の賠償事故も時価額を限度として補償



お子様ご本人だけでなく、
家族やペットが起こした賠償事故も補償

特長 2

お子様がケガ

学校内・放課後・
通学途中・部活動中・
プライベートを問わず
24時間補償で安心!



全プラン特定感染症危険補償特約付き
新型コロナウイルス感染症やO-157も補償!

2022年2月現在、新型コロナウイルス感染症^(※1)は感染症法^(※2)第6条第7項第3号に規定されていますので、補償対象となります。
(※1)病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限ります。)であるものに限ります。
(※2)感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律をいいます。

細菌性食中毒・熱中症・特定感染症も補償!

「もしも」が起こった時に
大切なお子様を
24時間いつでもどこでも
お守りする
「備え」のご案内です

特長 3

幅広い補償

インフルエンザや
新型コロナウイルス
感染症も対象



病気で入院した場合の**医療補償**
(P5・M5プラン)



お子様の扶養者に
万が一のことが
あった場合の
育英費用補償
(P5・M5・Hプラン)

特長 4

団体割引等の適用

1万人以上の加入で
約51%割安
年間掛金3,000円~(月換算250円~)加入できます

簡単! ご加入手続きは記入・投函するだけ!

1月以降に学校から配布される**ピンク色の封筒**をご確認ください。加入依頼書を記入しご返送ください。(切手不要)

各種補償制度の概要

傷害補償は他の制度の給付に関係なく保険金をお支払いします。(一部特約を除く)

	日本スポーツ振興センター 災害共済給付制度	小中学生 総合補償 制度	PTA活動 補償制度
補償される活動範囲	授業中 登下校中	24時間	PTA活動中
保険の対象	児童・生徒	児童・生徒 個人賠償責任補償は 同居の家族も	児童・生徒 保護者、先生、 趣旨に賛同する会員
加入の方法	学校一括加入	個人(任意加入)	単位PTA一括加入
体育の授業中、手首を骨折した	○	○	×
PTA主催のお祭りでケガをした	×	○	○
休日に、サッカーをしてケガをした	×	○	×
自転車で他人にぶつかり、ケガをさせた	×	○	×
野球をして近所の窓ガラスを割った	×	○	×
O-157に感染し入院した	×	○	×
疾病により入院した	×	○ (P5・M5プランのみ)	×

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

新潟県小中学校PTA連合会 推薦 令和4年度
新潟市小中学校PTA連合会

PTA重要 必ず封筒の中をお読みください。
小・中学生総合補償制度のご案内

◆ごあいさつ◆
保護者の皆様には平素より、PTA活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。また、保護者の皆様からのご意見・ご要望も大切に受け止めています。このたびは、ご加入のお願いをさせていただきます。

本制度の主な特長

- ★ 団体保険なので保険料は**約51%も割安**です。
1年間で3,000円~の掛金で加入できます。
(月換算250円~の掛金です)
- ★ **自転車事故賠償事故の示談交渉サービス**を無料!
家族やペットが起こした賠償事故も補償!
※賠償請求額が10万円以下の場合、保険の窓口からサポートいたします。
- ★ 学校生活中、家庭生活中も**24時間しっかりサポート!**
- ★ 全プラン特定感染症危険補償特約付きで**O-157や新型コロナウイルス感染症も補償**されます。

申込期間
申し込み 3月18日(金) 4月1日(金) 5月1日(日)
締切日 3月18日(金) 4月22日(金) 5月1日(日)

※申込書は必ず封筒に入れてお送りください。
(一般社団法人新潟県PTA安全互助会の任意加入の制度です)

【令和4年度】 **重要** 必ずご覧ください!

小・中学生総合補償制度ご加入のおすすめ
(団体総合生活保険)

新潟県小中学校PTA連合会・新潟市小中学校PTA連合会 推薦

お子様やご家族が加害者に!?

示談代行付き(国内のみ)
個人賠償責任補償で安心!
支払限度額は最高1億円(P5・M5プラン)

お子様がケガ
学校内・放課後・
通学途中・部活動中・
プライベートを問わず
24時間補償で安心!

全プラン特定感染症危険補償特約付き
新型コロナウイルス感染症やO-157も補償!

細菌性食中毒・熱中症・特定感染症も補償!

幅広い補償
インフルエンザや
新型コロナウイルス
感染症も対象

病気で入院した場合の**医療補償**
(P5・M5プラン)

お子様の扶養者に
万が一のことが
あった場合の
育英費用補償
(P5・M5・Hプラン)

団体割引等の適用
1万人以上の加入で
約51%割安
年間掛金3,000円~(月換算250円~)加入できます

簡単! ご加入手続きは記入・投函するだけ!
1月以降に学校から配布される**ピンク色の封筒**をご確認ください。加入依頼書を記入しご返送ください。(切手不要)

各種補償制度の概要
傷害補償は他の制度の給付に関係なく保険金をお支払いします。(一部特約を除く)

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明点等がある場合には、代理店までお問い合わせください。

◆ 制度に関するお問い合わせ先
一般社団法人 新潟県PTA安全互助会事務局
〒950-0965 新潟市中央区新光町7-2 新潟県商工会館 5F
TEL **025-280-0456** (受付時間/月曜~金曜 9:00~17:00)

【幹事代理店】 有限会社 新潟コーリン
〒950-0965 新潟市中央区新光町7-2 新潟県商工会館 5F
TEL **025-280-0361** (受付時間/月曜~金曜 9:00~17:00)

【幹事保険会社】 東京海上日動火災保険株式会社
【非幹事保険会社】 共栄火災海上保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社
損害保険ジャパン株式会社
AIG損害保険株式会社